

市民病院だより

「子どもの心肺蘇生について」

小児科医師 安藤万里子

子どもは危険を避けることが難しく、大事故につながる可能性があります。

事故予防に努めることはもちろんですが、万が一の状況に備えて心肺蘇生法を身につけておくことで子どもの命を救うことができます。

1. 心肺蘇生法とは？

呼吸や心臓の停止などの生命の危機に対して、気道の確保や人工呼吸、胸骨圧迫などにより、心臓や肺の機能を維持、回復させることを目的として行う処置のことです。

普通の体温では、心停止により脳の血流が4〜5分間完全に途絶えると、その後、どんなに治療を行っても脳の機能を完全に回復させることが難しいとされています。

2. 心肺蘇生が必要な状況

心肺蘇生を必要とするのは、呼吸停止、心停止の患者です。子どもの心停止は呼吸が原因であることが多いとされています。

3. 心肺蘇生の手順

①意識の確認

顔色や皮膚の色が悪い方を見たらまず足の裏や肩をたたいて体を刺激し、大声で呼びかけ反応をみます。

②助けを呼ぶ

救助者が2人以上いる場合、1人が119番通報し、もう1人が心肺蘇生法（気道の確保・人工呼吸・胸骨圧迫）を行います。周りに誰もいなければ1分間は心肺蘇生を優先し、その後119番通報をします。

そして、また戻って心肺蘇生を行います。

③気道確保・呼吸をみる

反応がない場合、舌が気道に落ち込んで塞がれていることが予想されるため、気道確保が必要です。

片手を額に当て、もう一方の手の人差し指と中指であご先を持ち上げます。また、胸の動きの有無で呼吸をしているか判断します。

④胸骨圧迫（心臓マッサージ）

呼吸がなければすぐに胸骨圧迫を行います。胸骨圧迫は胸骨の下半分（1歳未満では左右の乳頭の間のすぐ下（図1））（1歳以上では左右の乳頭の間の胸の厚さの1/3以上（4〜5cm）、強く、速く（100回/分以上）、絶え間なく行います。

1歳未満では救助者が1人の場合、人差し指と中指の2本で圧迫します。救助者が2人以上の場合、両手の親指で圧迫します。

1歳以上8歳未満では両手または片手の手のひらの付け根で、8歳以上では成人と同様、両手で行います。

2人以上いる場合は疲れによる能率低下を防ぐため、1〜2分毎に交代で行います。

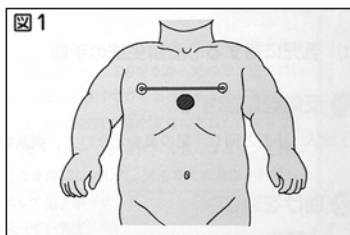
⑤人工呼吸

人工呼吸は準備が出来次第行います。

胸骨圧迫を30回行った後、人工呼吸を2回行います。（30…2の割合）（救助者が2人の場合は15…2の割合）

1回の息の吹き込みは約1秒かけて2回ずつ胸が軽く膨らむ程度に行います。

発見後、すぐに対応することで脳のダメージを少なくすることが出来ます。ためらわずに蘇生を行いましょ。



乳児の場合

時間外受診をされる方へ

急病等での時間外受診の場合は、必ず電話で宿日直医師の担当診療科をお問合せください。専門外の疾病の場合は、診察できませんのでご了承ください。

【問合せ】小城市民病院 ☎ 73 - 2161 ホームページ・アドレス <http://www.city.ogi.lg.jp/hospital/>